

推薦状

宮川 涼 氏は、宮川氏と私が参加している研究会で多岐にわたるテーマについて議論し、互いの研究にアイデアを出し合ってきた研究者社会の仲間です。私は心理学専攻の博士課程を修了し、主に認知発達科学の視点から研究を進め、人文科学博士を取得しましたが、宮川氏は哲学専攻という異なる視点から、非常に幅広く、かつ深い洞察力をもって研究会に参加されていていらっしゃいました。その博学さと鋭い指摘は、研究者の間でも一目置かれています。

博士課程中退後は、さらに経営や営業、企画の管理部門を統括する立場としていくつかの企業に勤務されてこられました。社内での役割は、新規事業の開拓や管理マネジメントなどの社内業務から、監査法人や税務当局、金融機関などとの外部折衝まで幅広いものでした。

宮川氏の職業に対する姿勢、未開拓の分野に臆することなく着手し、次々と実現していく能力と意欲は卓越していると考えます。一方で、それゆえに、一つの企業にとどまり続けることなく、新しい境地を開拓するために職場を変えてきたとも言えます。宮川氏は、採用された企業で任された業務が成功し、経営が軌道に乗ると、数年間常勤職を全うしたうえで、場合によっては新たに宮川氏を必要としている企業へと転職をされてきたとのこと。

このような宮川氏の職歴は、採用企業の社内外のバランスを考慮しつつ、当該企業がさらに安定・発展する方向性を提示したうえで、必要であれば自らの身を切ってまでも企業の利益と展開を優先した結果であると考えます。宮川氏は、様々な要因を考慮し、自らが当該企業に留まるよりも、企業にとっての良策を選択する冷静な判断力を持っていらっしゃいます。また、転職後の企業の側からすれば、宮川氏の知識と能力、意欲やノウハウを必要とするからこそ、宮川氏を採用してきたと言えます。このような宮川氏の姿勢は、日本に伝統的に残っている終身雇用には固執するのではなく、自らを現在必要とする企業の発展に寄与したいという上昇志向の現われであり、日本経済や雇用状況の改善に向けた宮川氏の強い志を示しています。

宮川氏は、知的能力の高さはもちろんですが、職業に対する責任感も非常に強く、また、目標に向かって努力を惜しまない勤勉さと意志の強さを備えていらっしゃいます。加えて、宮川氏は、仮に専門的な知識が不足している未知の分野であっても、中核となる知識や技能を習得していく能力に長けており、その集中力には驚嘆するばかりです。

以上のように宮川氏は真面目な努力家でもあり、貴社にご採用頂けましたら、必ずや新たな知識やスキルを獲得し、活躍してくれると信じております。ご高配を賜りますようお願い申し上げます。

令和5年8月8日

埼玉県新座市菅沢2-1-28 十文字学園女子大学 幼児教育学科

教授・臨床発達心理士 長田瑞恵



<弊職の略歴> 平成12年3月 お茶の水女子大学大学院単位取得後満期退学
平成12年4月～平成14年3月 日本学術振興会特別研究員(於お茶の水女子大学)
平成14年3月 博士(人文科学, Ph.D. in Psychology; お茶の水女子大学) 取得
平成14年4月～十文字学園女子大学 幼児教育学科 専任講師
平成21年4月～十文字学園女子大学 幼児教育学科 准教授
平成28年4月～十文字学園女子大学 幼児教育学科 教授(現在に至る)